

樹齢約 150 年の赤石五葉松。樹が古くなる と幹肌が白くなり、風格が出ることも特徴



「新生盆栽展」では、盆栽の最高峰「国風賞」 受賞作品などを無料で見ることができる



「誰でも楽しめる盆栽講座」。アドバイスを もらいながら自身の盆栽を手入れする



毎年11月に開催される四国中央市産業祭 には、生産農家や愛好家たちの力作が並ぶ

# 後継者問題

原種を守り続けた

生産農家の高齢化と後継者不足が全 国的な問題になっています。 も減少していきました。そして現在、 需要の減退と共に生産農家

と同じ性質を持つ接ぎ木や挿し木とは異なり、人間のように一つ一つの苗が個性豊かに成長することも魅力です。その反面、成長には時間を要し、種をまいてから「盆栽」として評価を受けるようになるまでに40年、更に「美しい」と評されるまでには、80年かかると言われています。 な赤石五葉松を欲しいという声も多 法で培養される赤石五葉松は、 樹齢2~5年の若く安価

> て、盆栽文化を継承していくことがを守っていくためには、後継者を育を明よりも長く生きる赤石五葉松 も大切です。

玉

葉松は、

1対し、5本1組になって般的な松の葉が2本1組

、密に生じた短い葉や柔軟でし、5本1組になっている五的な松の葉が2本1組である

枝を曲げやす

いるとして、

国内外から高い評価を い木質が盆栽に適して

得ています。

ほど、盆栽としての醍醐味を備えた始まり五葉松に終わる」と言われる

愛好家の間では「盆栽は五葉松に

品種です。

Ę

## 種をまい 7

合では、 題の解消につなげるために、日野組力を知ってもらい、そして後継者問多くの人に盆栽や赤石五葉松の魅 ています。 合長を始めとする赤石五葉松盆栽組 さまざまな取り組みを行っ

石五葉松。その歴史は古く、400 葉が短く鮮やかな緑色で、葉の裏

の原種が、盆栽の女王「赤石五葉松」 その一帯に太古より自生している松 える東赤石山(標高1

0 7 ばり。

土居町と新居浜市の境にそび

て知られています

昭和30年ごろに始まった盆栽ブ

赤石五葉松の名を全国区にし

年以上前からこの地方の特産物とし

組合の職人が講師を務めるなど、催されている生きがい講座では、 石五葉松クラブや、ユーホールで開た「新生盆栽展」。関川小学校の赤せ、愛好家以外も楽しめるようにし 品を着物や書、 をテーマに、 「盆栽の新たな見せ方を提案する」 全国から集められた名 水引などとコラボさ

石五葉公が平り種が守り続けられていることも、赤種が守り続けられていることも、赤

つです。 石五葉松が評価されている理由の一

はずだと日野組合長は言

生産者さえいれば市場が広がる

獲を招きました。しかし、生産農家た一方で、価格の高騰が苗や種の乱

これらの活動は、公栽の魅力を幅広くP.S だと日野組合長は話れ 後継者を芽吹かせる 盆栽の裾野を広 「種まき」

ージでは「種」 のみなさん

次のペ 盆栽の魅力を伺いました。

高校卒業後、盆栽の名門・大樹園 (愛 知県)で修業。平成3年から石鎚園。 盆栽の魅力を伝えるため、さまざ

庁出入り盆栽師の1人。



日野 勉 さん

Tsutomu Hino 赤石五葉松盆栽組合 組合長

盆栽水石 石鎚園 (土居町上野) 代表

全国で20人のみが登録される宮内

special feature!/2

日本の伝統文化のひとつとして世界中に知られ小さな鉢の中に自然の風景を創り出す芸術

を国内外に広め、本紙では、盆栽

取り組んでいる人たちを2回に分けてを国内外に広め、盆栽文化を守ろうと本紙では、盆栽―赤石五葉松の魅力

組合の日野の組合長から、お話を伺い初回となる今回は、赤石五葉松盆栽

五葉松に始まり

紹介していきます。

松」です。

るのが、本市土居町原産の「赤石五葉しさから「盆栽の女王」と呼ばれていその中でも、鮮やかな葉色や樹形の美

分する「五葉松」(別名

ヒメコマツ)。

盆栽の代表格として黒松と人気を二

盆栽





くと来校者は驚くという 右下 \_ 2年前にクラブで まいた種から作った苗 左\_講師の1人井上訓節さ んは、盆栽インストラクターの資格を持つ

れ合う時間を大切にすることで、 掛けるほど私たちに返してく ができて楽しいです。 た時はとても悲しかったですが せてくれるなど、 五葉松の成長を、 取ると、 担当 藤田 幸代な 次の時には新し 盆栽は手間を掛ければ い芽が顔を 豊かな心 ・自然と触

6年**曾我部仁**さん(写真右から4番目)

盆栽が好きなので

のに担当したので、

を

脇から出てきた新

時間を忘れるほど作業に夢中になって、 ぽけなものに思えて

右上 \_ 川で拾ったトチの実から育てた実生2年の豆 盆栽 右下 \_ 菊間瓦の鉢に植えた実生5年の紅葉(画 像はいずれも川崎さんの Instagram から) 左 \_ サザ

と審査会に認められ

S D

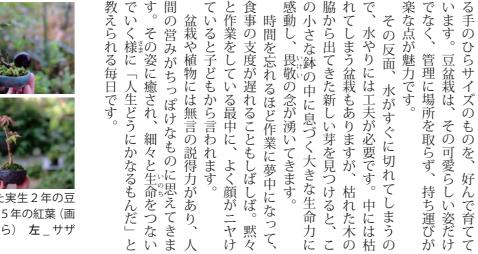
sに貢献する特筆すべき活動である」

盆栽文化や赤石五葉松は、

そして世界を動かす

<sup>9</sup>力を持って

私たちの意識





四国中央テレビの協力で制作 してくれる人を世界中から集 めるため、7か国語で制作(画 像はフランス語)

ステムが、今なお地域で受け継がれていまて盆栽として出荷するまでの一貫したシ石山系にはその原生林があり、苗から育て 動発表大会四国大会」で、 ていく事にもつながると考えました。住民意識は、自然環境について知り、 同じ芸術と捉えられています。 。これらを世界遺産に登録しようとい 世界に誇る赤石五葉松の産地です。 環境省主催の「全国ユース環境活 ピカソやゴッホの絵画と <sup>7</sup>まちづく この発表が 近年問題にな クについても、 四国中央市 りが

いう皆の意識です 「世の

世界遺産を目指す」のものが必要です。

登録を目指しています。盆栽景観の関連遺産」の な活動をしています。 した地域創生」をテーマに、 到 報科学部では、 4年程前から「赤石五葉松を 徳永俊一先生の さまざま

や枯れた葉の剪定、 もらいながら、

クラブでは、

自分が担当する鉢の草引き、講師の先生たちに教えて、4年生の時に入りまし

自分が担当する鉢

真逆であると知っ

た時は落胆

1。庭木と盆栽ではアプローい講座を受講したことがき

ーチ

の中で長い年月をかけて形を変えて

と思って、4年生の時に元の赤石五葉松のことを

年生の時に入りまれのことを知りた

関川小学校

がれていく。

赤石五葉松クラブ

現在創部15年目。当初3人だっ たクラブ員は徐々にその数を増 やし、今年度は9人が所属。活

動は月に1回。赤石五葉松盆栽

組合から4人が講師を務める。

盆栽はクラブの中で代々受け継

川崎 加代子 さん

日野さんが講師を務める生きが い講座「誰でも楽しめる盆栽講

座」を8年前から受講。自宅で

は豆盆栽や苔玉を数多く育て、

苔玉の講師を務めることも。豆

盆栽や苔盆栽の魅力を自身の

(土居町入野)

### 「盆栽だからできる 盆栽にしかできない」

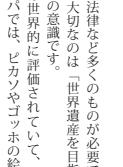
### 土居高等学校 情報科学部 (ビジネスコース)

菅野 優磨部長(2年・写真中央右) 井原優弥さん(2年・写真右端) 中村 亮介さん (2年・写真中央左) 徳永俊一先生(顧問・写真左端)

盆栽を生かした地域創生に取 り組む。全国高校観光選手権 訪日部門グランプリ (2018)、 ディスカバー農山漁村の宝選定 (2020) など、部活動でありなが ら多方面から高い評価を得る。









special feature! / 4